

東欧(バルカン諸国)の照明動向に関する研究

日大生産工 ○山家 哲雄

1. はじめ

ヨーロッパ大陸の南東部に位置する東欧(バルカン諸国)は、人種と文明の交差点である。地理・地形的要因により、古代から様々な民族が入り込むと共に、多民族国家による支配の時代が長かったことから諸民族が混在している。このため、諸民族同士の争いが、幾度となく勃発し、東欧のバルカン地域は、「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるに至った。

この度、2012年度に開催された 5th BALKAN LIGHT 2012(東欧照明国際会議)と、2013年度に開催された 9th Turkish NATIONAL LIGHTING CONGRESS(トルコ国内照明会議)に、それぞれ出席をする機会を得た。

今回は、日本では、比較的、馴染みの薄い東欧(バルカン諸国)の文化、街並み、街あかり、および最新の照明研究の動向に関する学術調査結果について報告する。

2. 東欧諸国

古くは、ヨーロッパ西部の資本主義・自由主義圏諸国に対比して、かつての共産主義・社会主義圏に属したヨーロッパ東部地域の諸国を指して「東欧諸国(East European countries)」と呼んでいた。

すなわち、第二次世界大戦(1939年から1945年)後の冷戦時代(Cold War: 1945年から1989年までの米ソ関係)における東欧諸国と国際政治上、西欧諸国と対立関係にあった、旧ポーランド人民共和国、旧チェコスロバキア社会主義共和国、旧ハンガリー人民共和国、旧ルーマニア社会主義共和国、旧ブルガリア人民共和国、旧ユーゴスラビア社会主義連邦共和国、旧アルバニア社会主義共和国の諸国が位置する地域を指した政治的、人為的な呼称であり、ドイツ統合以前は旧ドイツ民主共和国(東ドイツ)を含めることもあった。

現在(国際連合による分類および地理的分類)における東欧諸国とは、ヨーロッパ東部に位置するポーランド共和国、チェコ共和国、スロバキア共和国、ハンガリー共和国、ルーマニア、ブルガリア共和国の国々に、バルカン半島諸国、旧ソビエト社会主義共和国連邦)の西側にあり、独立したウクライナ、ベラルーシ共和国、モルドバ共和国の国々を加えた地域を指す。

さらに、バルト三国(リトアニア共和国、ラトビア共和国、エストニア共和国)およびロシア連邦も含め、東欧と称する場合もある。

3. バルカン半島諸国

バルカン(Balkan)とは、ヨーロッパ大陸の南東部に位置し、南東ヨーロッパとも呼ばれる地域である。黒海(Black Sea)、エーゲ海(Aegean Sea)、地中海(Mediterranean Sea)、アドリア海(Adriatic Sea)に囲まれた大半島で、ブルガリア共和国、マケドニア共和国、セルビア共和国、モンテネグロ、クロアチア共和国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、アルバニア共和国、コソボ共和国、ギリシャ共和国およびトルコ共和国の一部(ヨーロッパ部分)の諸国からなる地域と定義される。

なお、歴史的な繋がり深いルーマニアや旧ユーゴスラビア社会主義連邦共和国のスロベニア共和国をバルカンに含める場合もあり、必ずしも定まった地域概念がある訳ではないと考える。

バルカン半島の北限は、ドナウ川(Danube)とサヴァ川(Sava)とされており、その地形は平野が乏しく、大部分が山地で、ディナル・アルプス山脈(Dinaric Alps)、バルカン山脈(Balkan Mountains)、ロドピ山脈(Rhodope Mountains)、ピンドス山脈(Pindus Mountains)などの多くの山脈が連なって走っている。

バルカン半島の西岸部は、比較的単調な海岸

Study on the Lighting Trend of Eastern Europe, the Balkan

Tetsuo YAMAYA

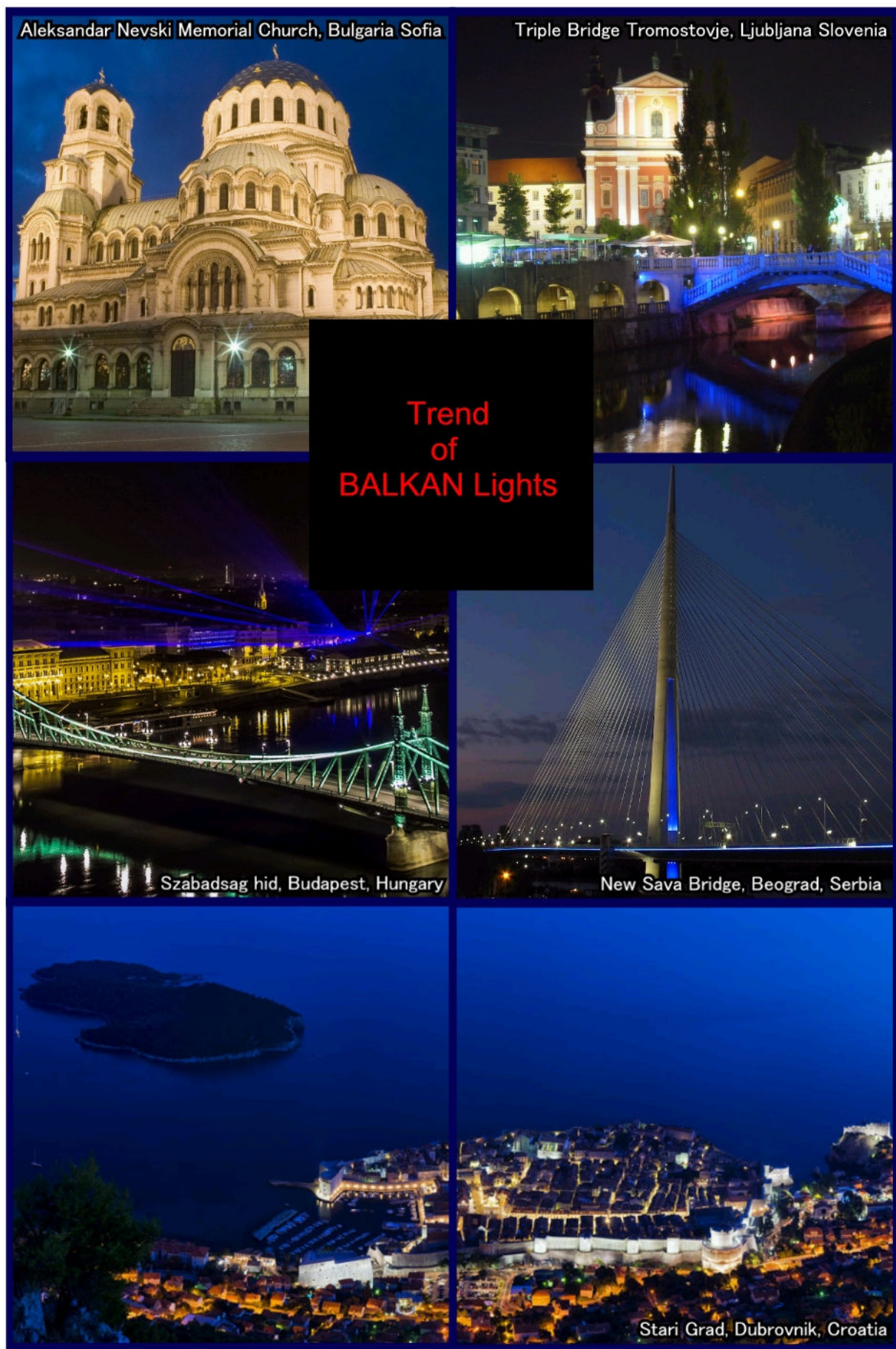


図1 東欧（バルカン諸国）照明動向



図2 東欧（トルコ・イスタンブール市）照明動向

線であるが、南から南東岸の沿岸部は、非常に複雑な海岸線をしている。

バルカン半島では、地理的・地形的要因により、古代から様々な民族が入り込む一方、東ローマ帝国、オスマン帝国、オーストリア・ハンガリー帝国といった多民族国家の時代が長かったことから諸民族が混在しており、必然的に宗教も東方正教会、キリスト教(カトリック)、イスラム教が混在している。

このため、西欧から単一民族による国民国家の概念がもたらされると、たちまち諸民族同士の争いが勃発し、地域は「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれるに至った。

バルカン戦争(1912年から1913年)、第一次世界大戦(1914年から1918年)、第二次世界大戦、一連のユーゴスラビア紛争(1991年から2000年)などの多くの争いを経験しており、現代においてもボスニア・ヘルツェゴビナ内戦(1992年から1995年)やコソボ紛争(1996年から1999年)など、宗教・民族問題を多く抱えているのも現状である。

4. BALKAN LIGHT 2012

東欧照明国際会議(BALKAN LIGHT)は、1999年に第1回大会が、ブルガリア共和国の黒海沿岸の保養地「ヴァルナ」で開催されたのを皮切りに、それ以後、概ね3年毎に主催国を巡り、盛大に催されている。

過去の東欧照明国際会議は、

- ・第1回大会 1999年 Varna, Bulgaria
- ・第2回大会 2002年 Istanbul, Turkey
- ・第3回大会 2005年 Cluj Napoca, Romania
- ・第4回大会 2008年 Ljubljana, Slovenia
- ・第5回大会 2012年 Belgrade, Serbia

の通り、開催された。

会議の内容は、照明工学と技術、および照明デザインまでに渡り、光に関わる全ての領域を幅広く網羅する、バルカン諸国における唯一の国際照明会議であり、すでに定着の域に達している。(図1参照)

国際会議と云う性質上、照明研究の動向は、多岐に渡っていたのも特長である。その中で、古代ギリシャ時代から受け継がれてきた古灯具の光学特性を後世に残すため、その配光特性の実測データのデータベース構築が行われていることが、大変、興味深く思った。

5. 9th NATIONAL LIGHTING CONGRESS

トルコ国内照明会議(Turkish NATIONAL LIGHTING CONGRESS)は、トルコ照明学会

が主催する照明に関する国内会議で、第1回大会が、1996年にイスタンブール工科大学で開催され、それ以後、概ね隔年毎に、イスタンブール市内で開催されている。

直近の会議では、毎回、「照明とLEDに関する新しい動向」をテーマに掲げている。必然的に照明研究の動向は、LED光源、LED照明器具、LED測光技術、LED照明(デザイン)、自動車照明(LEDヘッドランプ)などの最先端の照明研究が盛んである。(図2参照)

会議期間中に、隣接する施設において併設された国際照明展示会「Istanbul Light 2013」の内容もLED関連商品に集中していた。

6. まとめ

以上の様に、周囲をバルカンの山々と黒海、エーゲ海、地中海、そしてアドリア海に囲まれた東欧(バルカン諸国)の文化、街並み、街あかり、および最新の照明研究の動向に関する学術調査結果について報告した。

東欧(バルカン諸国)は、どの国も宗教色が濃く、年齢を問わず教会で祈りを捧げている風景に出会う機会が多い。神への正しい信仰が、日々刻まれる東欧(バルカン諸国)の時空の中に確りと根を張っている証であると感じた。

昨今、世界的に24時間型国際社会の形成、運輸技術の高性能化、情報ネットワーク環境の構築と普及などに起因し、諸文化の均質化が進み、世界中の何処でも同じ様な文化が支配的になって来ている。同様に、都市、街の構造や景観デザイン、照明デザインの分野などにおいても、デザインの均質化の傾向が進んでいる。

文化とデザインの均質化が進む傾向の中で、東欧(バルカン諸国)には、まだ「その国らしさ」「人々が生活をしている」と云う「原風景」があり、街あかり(景観照明)、路あかり(街路照明)がある。自然と共に数々の歴史の変遷の中で、ひっそりと変わることなく、控えめに生活を営んできた東欧(バルカン諸国)の人々の笑顔が美しいと感ずるのは著者だけではないと思う。

「参考文献」

- 1) 山家哲雄：「東欧バルカン諸国の街あかりデザイン考」、日本大学生産工学部学術講演会講演論文集(CD-ROM 版収録) (2012)
- 2) Proceeding of the 5th Conference BALAKAN LIGHT 2012, pp.1-347 (2012)
- 3) Proceeding of the 9th Turkish NATIONAL LIGHTING CONGRESS 2013, pp.1-288 (2013)